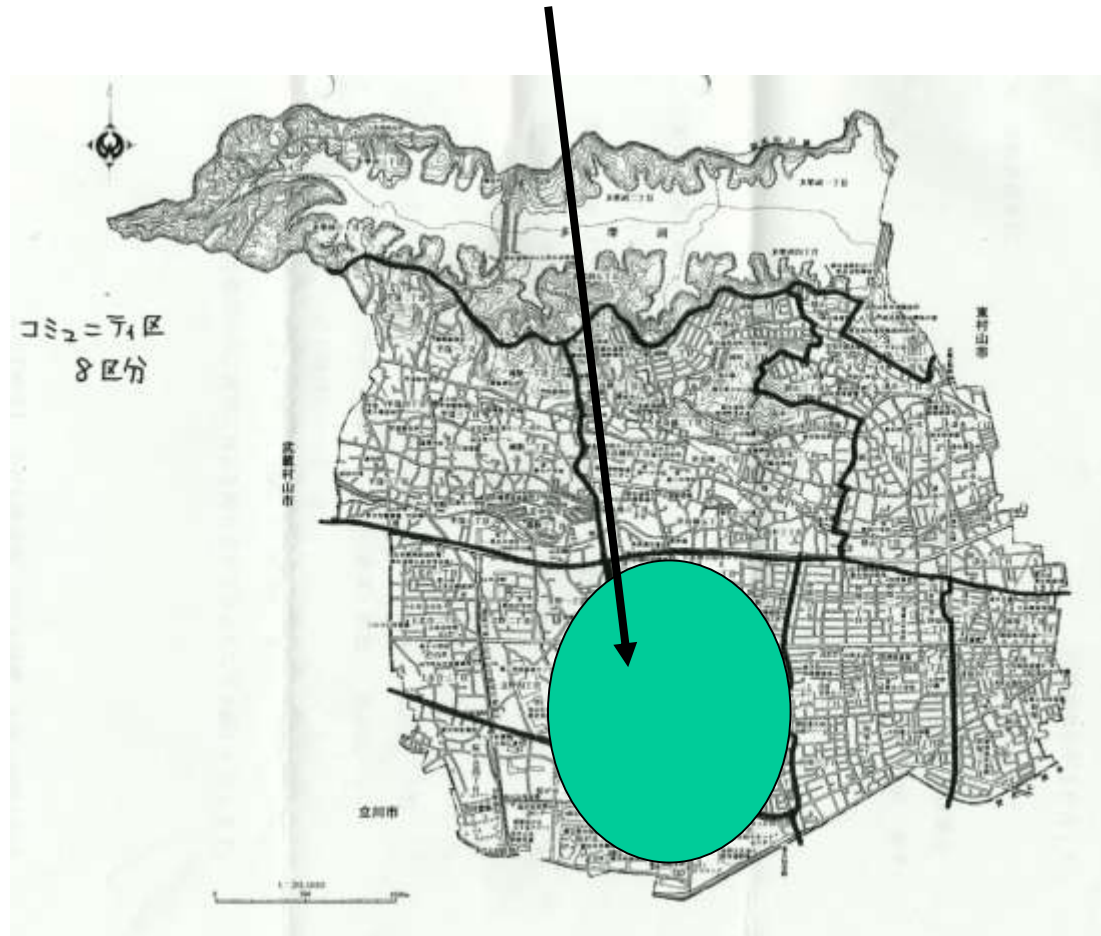


東大和市

(南街・桜が丘地域防災協議会は
シニアで結成／運用している組織)

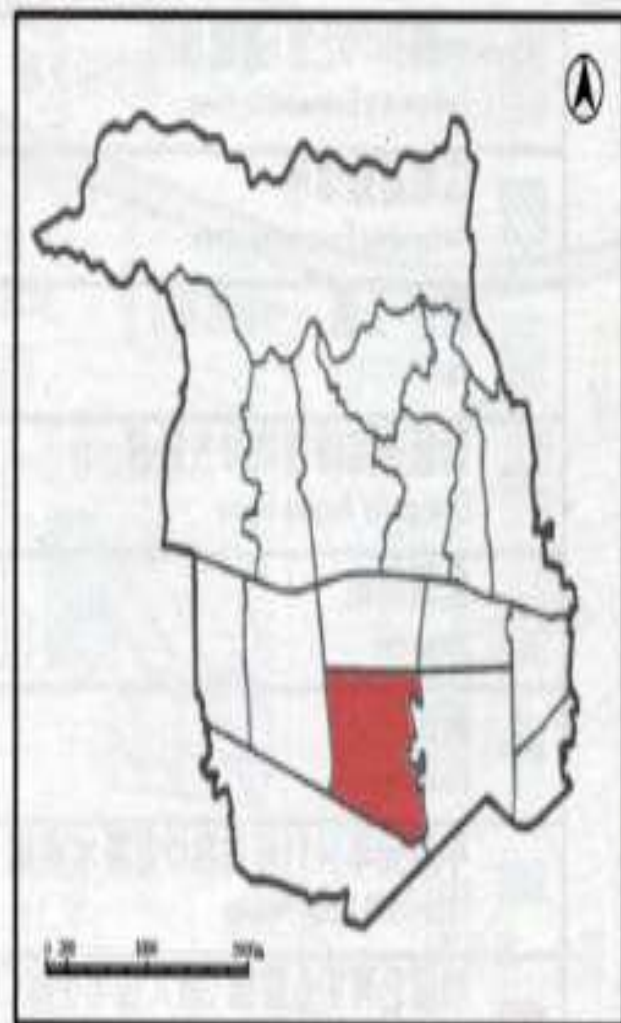
南街・桜が丘地域の 東大和市全体地図から見た 位置(東大和市の南に位置する)



地域環境の特殊性(航空写真参照) (南側は大型マンション群、北側は木造住宅密集地)



○位置図



○自然環境



南街・桜が丘地域とは

- 桜が丘地域; 日立航空機(陸軍エンジンの生産工場)
(東大和市駅から玉川上水駅迄; 校正会霊園迄工場)
- 南街地域; 工場の住宅地(昭和16年頃整備; 道路は
基盤の目、上下水道完備)
 - 住民は全国から流入し、生産工場の為、人材的には種々の能力
を持った集合地域となった
 - 自治会は100%加入(水道事業が市に移管する迄は)
- 南街vs本村地域の差別化
- 地番は南北の帯状(南街は正式地番には無し、市制で南街となった)
- 西より; 芋窪、蔵敷、奈良橋、高木、清水、狭山
- 自治会名; 栄1~3、協和1~3、末広1, 2、大和通り、親和(旧南街地域)
- 学校 ; 大和小学校、中学校、大和小学校分教場(南街)
- 桜が丘のマンション; 約15年前にグランバサージュが建設今に至る
- 地域として地縁、血縁の全くない地域／地域を纏める何らかの方法が必要

南街・桜が丘地域の特徴

- ・ 地盤的には問題ない地域である
 - ・ 立川断層が近くにあるが直下ではない
 - ・ 天災に対して問題が少ない
津波、洪水、崖崩れ、液状化
 - ・ 南街地域は家屋密集地域である。
(市の人口の約25%が狭い地域に居住している)
 - ・ 南街地域は地震に対しての高危険度地域である
 - ・ 南街地域は高齢者が極めて多い(老老防災)
 - ・ 地震に関する地域危険度測定で高度危険地帯と判定された。
- この為当該地域は災害時に火災発生対応が必須である。

南街地域の災害危険度



火災危険度 ※ は「災害時活動困難度を考慮した火災危険度」(火災が発生した建物の消火や救助活動に関わる危険度)

建物倒壊危険度 ※ は「災害時活動困難度を考慮した建物倒壊危険度」(倒壊した建物からの避難や救助活動に関わる危険度)

防災上の課題

- ・狭小な宅地が多く、また旧耐震基準による木造建物が地区全体の3割以上を占め、
防災上の課題を有している。
- ・南街2丁目の火災危険度・建物倒壊危険度は3と新堀1丁目に続き市内ワースト
2位となっている。また、その他にも火災危険度が3の地域がみられる。

南街・桜が丘地域防災協議会の概要

組織; 21団体(自治会; 14、管理組合; 7)

対象地区の世帯数; 約9千、人口; 約2万人

役員; 10名

幹事; 34名

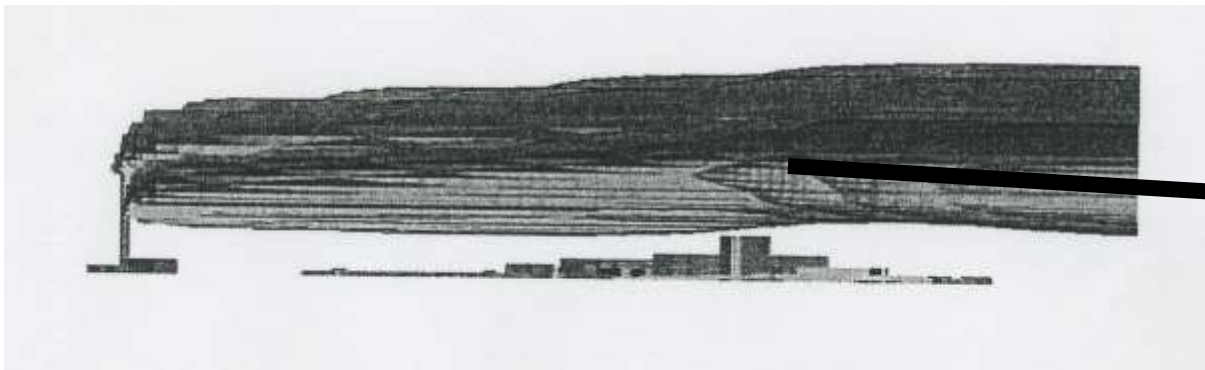
女性班たんぽぽ; 11名

←
←
構成員の殆どが
シニア世代

南街地域の特異性(南に大型マンション)

大型マンション建設前の南風の流れ

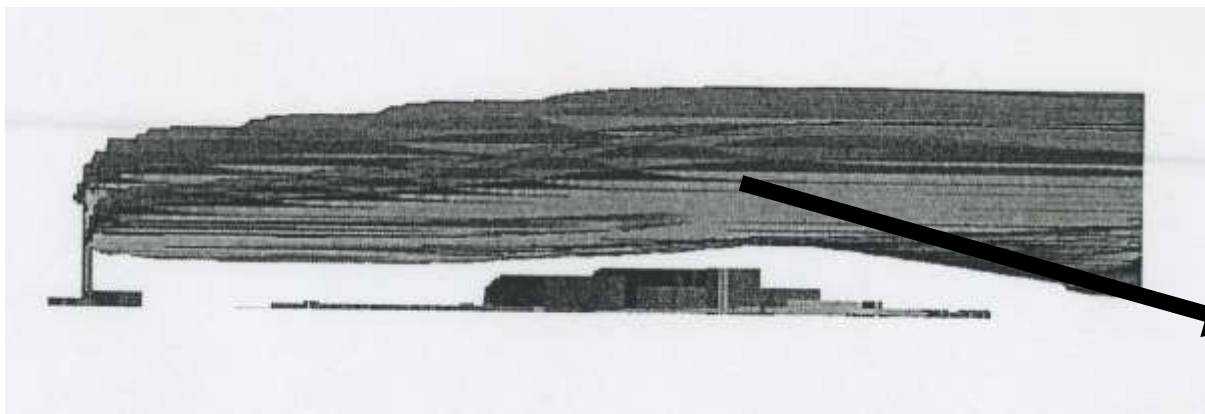
南



北

大型マンション建設後の南風の流れ

南



北

関連地域の世帯数及び人口数

平成25年04月現在					
町名	丁目	世帯数	人口数		
			男	女	合計
南街	1丁目	570	586	617	1,203
	2丁目	962	1,001	956	1,957
	3丁目	874	1,009	1,068	2,077
	4丁目	260	234	271	505
	5丁目	808	834	773	1,607
	6丁目	540	565	554	1,119
	合計	4,014	4,229	4,239	8,468
桜が丘	1丁目	1,516	1,987	2,177	4,164
	2丁目	2,076	2,569	2,695	5,264
	3丁目	998	1,054	1,272	2,326
	合計	4,590	5,610	6,144	11,754
両地域総計		8,604	9,839	10,383	20,222

自治会活動の基本事業

(公民館はこの活動を支援)

- 東大和市に住んで人生を享受出来る
- 自治会の活動は活動が目的でなく人生を享受する手段の一つである。
- 活動の3つの柱として、
 - 防災対策(両地域共通課題)
 - 青少年健全育成(桜が丘地域;若年者が多い)
 - 高齢者対策(南街地域;高齢者が多い)

防災協議会立ち上の原点

地域の沈滞化した自治会活動の活性化 手段として防災をその切り口とした

- 平成19年04月より予備調査開始
- 自治会／管理組合の2種の存在
- 防災対策(全ての地域に共通事項である)
- 他の地域の活動状況調査／資料収集
- プロジェクトチームの発足
- 本会は協議会方式;
 - 防災協議会として発足

防災活動の基本方針

- 各自治会（管理組合）が独自に活動する為の支援（各組織各々の強化が必要）
- 公民館側（関連機関）との密接な連携
- 加入住民への防災意識の高揚支援
 - 種々事業の展開／参加要請
 - 継続的な機関紙の発行（教宣活動）
 - 絶え間ない人材の育成（団体の継続）

地域は第二小学校の全学区

- 南街地域（木造）と桜が丘地域（大型マンション）
- 避難地域の相違

桜が丘地域　；東大和南高校／都立南公園

南街地域　　；第二小学校／第二中学校

対象地域明細;南街公民館
及び第二小学校の学区をそ
の地域とする



地域の相違を超えての作業

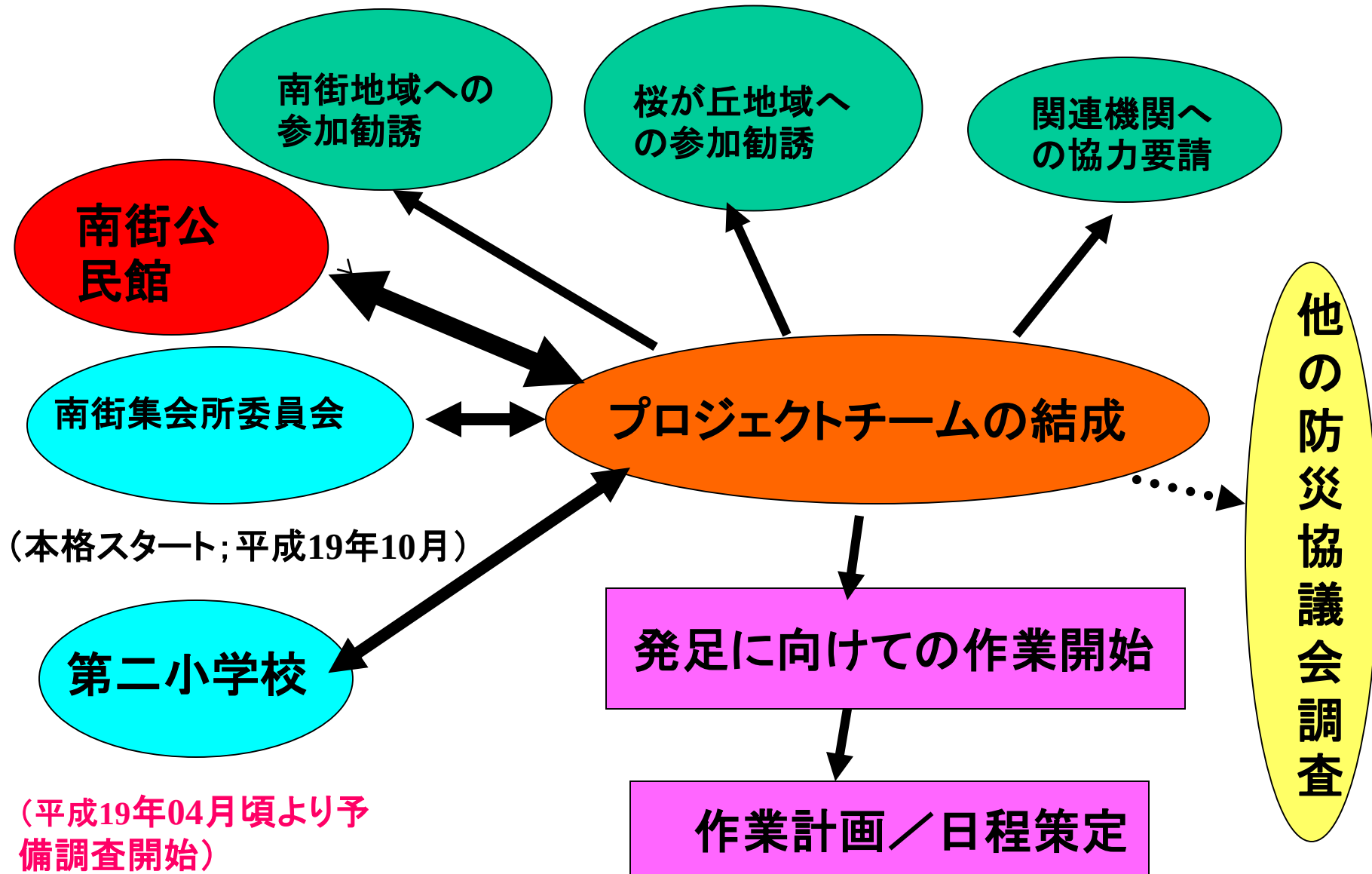
- 南街地域と桜が丘地域の共通項
- 避難時の小学生の安全確保
- 避難場所(公民館／第二小学校)との共同作業

◎ 特に規約作りには、

- 行政側(第二小学校)
- 自治会側(南街地域)
- 管理組合(桜が丘地域)

共同作業

プロジェクトチームの結成



防災協議会の発足 (平成20年4月発足)

プロジェクトチーム
の結成

関連機関

防災協議会の発足

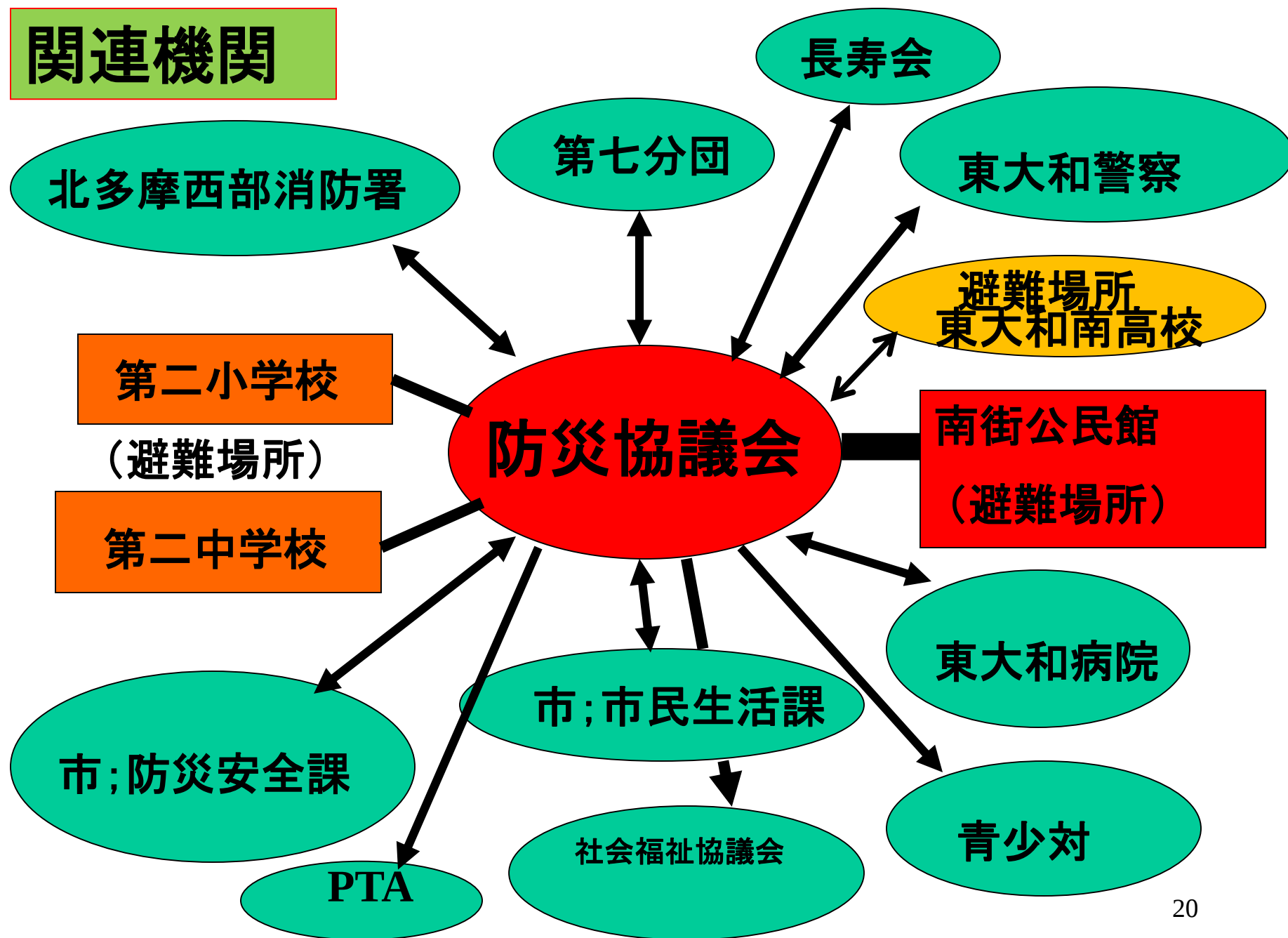
第二小学校との連携

マンション群(管理組合)
(桜が丘地域; 7)

木造住宅群(自治会)
(南街地域; 14)

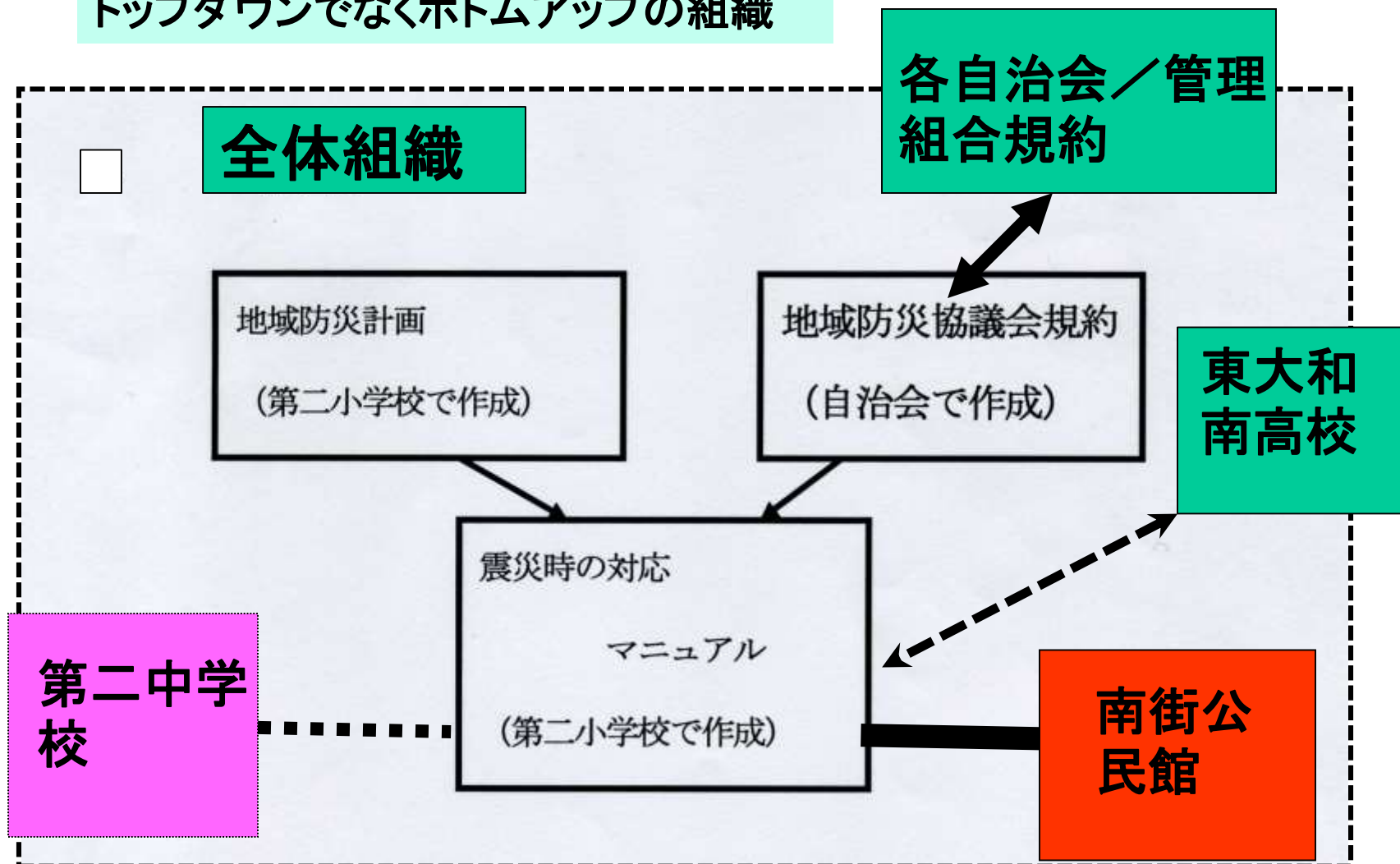
南街公民館との連携

関連機関



南街・桜が丘地域防災協議会全体組織

トップダウンでなくボトムアップの組織



防災協議会の年間主要事業

(平成27年度主要事業)

- 総合防災訓練(第二小学校／第二中学校)
- 救急救命講習会(年2回)
- 可搬ポンプ操作講習会
- 防災資器材操作訓練
- 各団体への防災訓練支援(重点事業)
- 東大和病院の「トリアージ参加」
- 東大和南高校との防災訓練(平成24年度から開始)
- 女性班の活動強化(要援護者支援)
- 地域の放射線量の継続測定(平成23年度から開始)
- 食品の簡易放射線量の測定(平成24年度から開始)
- 南街公民館との共同事業(街づくり懇談会)

防災協議会としての広報活動

26年度東大和市民ネットに加入しホームページ／ブログを立ち上げた

ホームページ; 南街・桜が丘地域防災協議会
ブログ; 。南街・桜が丘地域の各種団体活動報告

ブログ立ち上げの理由

(紙からの脱出、伝達の迅速性／広域化の追求)

- ・情報の共有化
- ・情報の保存
- ・情報の地域へ広範囲に伝達可能
- ・シニアから現役世代へメッセージ伝達の確保
- ・地域外への情報発信が可能となった

防災協議会の活動拠点

南街自治会集会所



自主防災倉庫



災害に備え住民として基本行動指導

- 自助、共助、公助；————→ **近助(これが重要)**
(隣近所の方との交流)
- 家庭での準備；健康の維持管理
(個人) ；家具の転倒防止、火災警報器、非常食、
 水、安心カードの保管、消火器、
 懐中電灯
 ；家の中での避難経路の確保
 ；自治会への加入
 ；防災訓練への参加(救急救命／応急
 処置を含む)
 ；避難場所への経路の実踏実施



南街地域は火災が重点案件

避難場所の具体的行動内容強化

- 協議会と避難場所との本格的共同避難訓練
- 施設使用細部の取り決め／ルール化
- 模擬避難訓練を実施して必要時間の測定
- 行政側の対応確認(模擬避難訓練)
- 地域vs避難場所の差別化(人口比率より決定)
 - 第二小学校／第二中学校／南街公民館／
都立東大和南高校
 - 必要Toolの製作／購入;看板等

共同事業による主要発行資料(4件作成)

平成21年度;「南街・桜が丘地域
の防災地図」の作成
(全20ページ)

平成22年度;「南街・桜が丘地域地デ
ジ電波電界強度の測定結果及びその
考察」の作成(全100ページ)



南街・桜が丘地域地デジ電波電界強度の 測定結果及びその考察

東大和市 南街・桜が丘地域防災協議会
東大和市 南街公民館
2011年(H23)01月20日



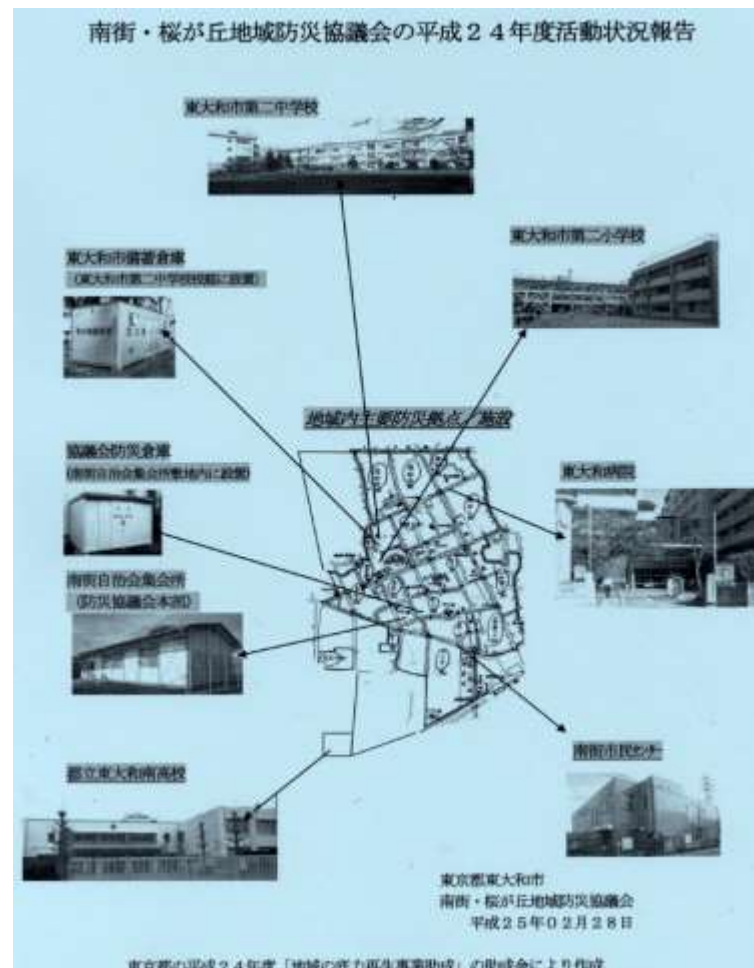
平成23年度;「南街・桜が丘地域の空間放射線量の測定及びその考察」の作成 (全160ページ)

南街・桜が丘地域の空間放射線量測定結果及びその考察



東大和市立南街公民館
南街・桜が丘地域防災協議会
平成24年03月31日

平成24年度;「南街・桜が丘地域防災協議会の平成24年度活動報告」の作成(全200ページ)



地域の底力再生事業助成金への申請 (東京都事業)の利活用

当該協議会及び一部自治会は標題の助成金を利用して組織の強化を図っております。

- ・ 防災協議会 ; 2回申請
- ・ 栄三丁目自治会 ; 3回申請
- ・ 栄一丁目自治会 ; 3回申請
- ・ 協和三丁目自治会 ; 1回申請
- ・ 第一光ヶ丘自治会 ; 2回申請
- ・ 協和二丁目自治会 ; 1回申請
- ・ 栄二丁目自治会 ; 1回申請
- ・ 末広一丁目自治会 ; 一回申請

(この他にコッミュニティー助成の利用しております)

火災警報器の地域での共同申込み

H20年06月21日

南街・桜が丘地域防災協議会

火災警報器の共同購入申込書

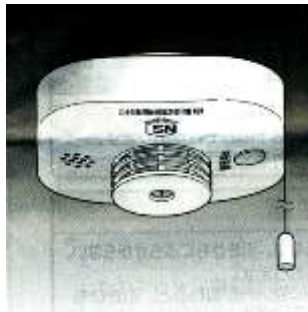
南街・桜が丘地域防災協議会発足に伴い同協議会の事業として下記の火災警報器の共同購入を行います。火災警報器は次ページ案内の通り平成22年04月01日から一般家庭でもその設置が義務付けられます。（但し一般家庭に対しての罰則規定はありません）

当該警報器は既に栄一丁目自治会で地域住民に一括購入／設置を行なった実績のあるもので、立川の防災センターからの購入致しましたが、今回も同所から購入致します。

尚協和三丁目自治会でも本年度各戸一括購入を決定しております。

1. 形式（miyata製）

外観図



煙感知式 (部屋一般用)



熱感知式 (台所等熱源のある所)



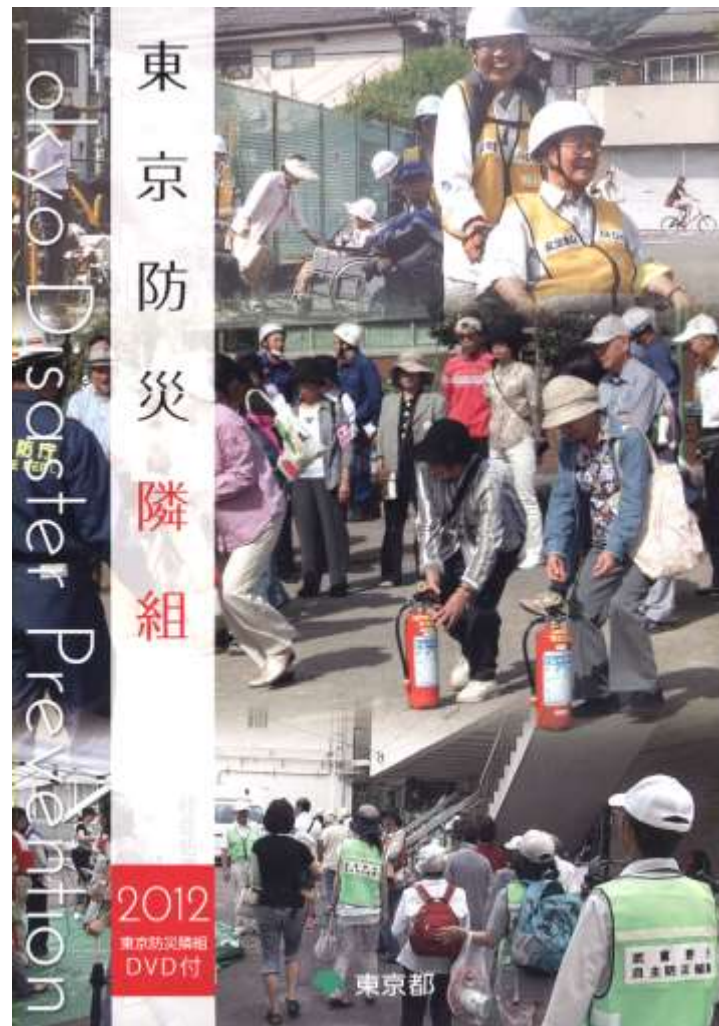
- 総額¥50,000以上；5%引き⇒¥3,325/個（15個以上の購入）
- 総額¥200,000以上；10%引き（これ以上の値引きなし）⇒¥3,150/個（64個以上の購入）

2. 申込方法

下記の申込書を各組の本年度委員にxx月xx日迄ご提出下さい。尚防災センターへの予約は現金での前払いとなりますので申込された方は別途xxxxxxが現金（¥3,500/個）の徴収をさせていただきます。仮領収書を発行致します。（尚割引引き金額との差額は別途返却致します）

外部からの評価

平成24年4月に東京都から第一回 東京防災隣組(全36団体)として認定されました



9. 内閣府白書関連

平成25年6月に内閣府白書「平成25年度の防災に関する計画」で防災協議会の活動が国会で報告されました。白書の内容は以下の通りです。

「南街・桜が丘地域防災協議会」は東京都東大和市の南部に位置し、南側に新しい高層マンション群が立ち並ぶ若い世代が多く居住する桜が丘地域のマンション管理組合と、道を隔てて北側には低層戸建て住宅が立ち並ぶ比較的高年齢者が多く居住する南街地域の自治会の性格が相違する二つの地域の21団体が地域内にある市立小学校、市立中学校、都立高校及び関連行政諸機関と連携して防災活動を含む地域の活性化に繋がる種々の活動をしております。

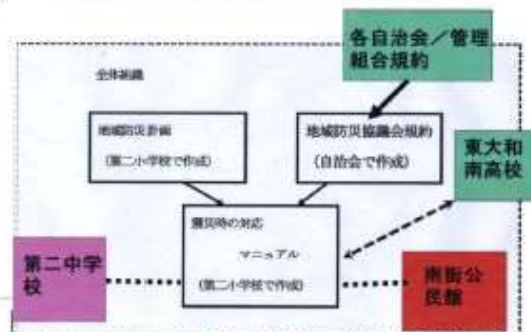
この地域は関東平野の中にあり山も川も海もなく、高低差も少ない天災地変（津波、川の氾濫、崖崩れ、液状化）の影響のない地域ですが、災害時低層戸建て住宅の多い南街地区では家屋の倒壊及び火災が問題になります。小学校及び中学校は住宅の密集する南街地域にあり、マンション地域の子供達は南街地区を通過して通学しております。

このような環境の中から双方の地域差を乗り越えて学校を中心として「どの様にして災害から子供を守る事が出来るか」に着目して地域内の自治会、マンション管理組合及び小学校／中学校（含むPTA）と平成19年度から予備調査を開始して平成20年に当該協議会を設立しました。以降主要防災活動として総合防災訓練、可搬ポンプ操作訓練、救急救護訓練及び地域病院とのトリアージ訓練を実施し、その他に地域活性の為に地デジ関連の問題の解決、地域放射線量の測定、食品の簡易放射線量測定を実施しており、これらの活動が評価され平成24年度に東京都防災隣組第一回の36団体に認定され、又都立東大和南高校と新たに防災協定を締結しました。

地域の状況（マンション群と低層戸建て住宅地域）



南街・桜が丘地域防災協議会全体組織



総合防災訓練の集合状況



今後の課題

- ・ 住民への防災意識の浸透
 - 自治会加入への継続的な運動
 - 防災協議会の存在の教宣活動
- ・ 関連機関との一層の連携強化(南街公民館)
(共同での事業計画の策定)
- ・ 関連(防災／救命)知識の継続的な習得
- ・ 魅力ある行動計画の策定
- ・ 各自治会／管理組合との一層の関係強化
- ・ 後継者の育成(防災協議会側)
- ・ 公民館員の人材育成(行政側の対応)

ご静聴有難う御座いました

終わり

自宅に潜む危機



リビング・キッチン

リビングで気を付けなければならないのは、背の高い家具の下敷きになること、窓や照明器具などのガラスの飛散によるケガ。揺れを感じたら物が「落ちてこない・倒れてこない・移動しない」場所に隠れます。キッチンの冷蔵庫や電子レンジなどの大きく重い家電、棚からの物の飛び出しなどにも注意が必要。

揺れが収まったら、ケガをしないように底の厚いスリッパなどで足を保護して移動。ドアを開けて避難経路を確保します。調理中の場合は、まずは身を守ることを最優先に考え、火の始末は揺れが収まった後にあわせて行います。



寝室

窓ガラスの破片やつり下げ式照明器具などの直撃を避けるため、枕や布団などで頭を保護し、スタンドや鏡台などが倒れてこない位置に移動すること。メガネは日頃からケースに入れてから寝るようにすれば、破損を防ぐことができ、あわてずに済みます。

揺れが収まったら、底の厚いスリッパを履き、ドアを開けて避難経路を確保。停電すると真っ暗闇になるので、あらかじめ懐中電灯を用意しておけば、暗闇の中でも安全に移動が可能。また、停電時に自動で点灯する市販の保安灯を備え付けておくのも一案です。



自宅で備えることの重要性

ひとたび大規模な地震が起これば、電気・ガス・水道などのライフライン被害や物資供給の停滞が想定されます。自宅の倒壊などを免れた多くの都民は、発災後も自宅にとどまって当面生活することが想定されますので、日頃から自宅で生活する上で必要な物を備えておくことが重要です。



日常備蓄という考え方

これまでの災害用備蓄は、乾パンやヘッドライトなど普段使わない物を用意する特別な準備と考えられてきました。そのため管理や継続が難しいとあきらめてしまう人も多かったはず。しかし、日頃利用している食料品や生活必需品を少し多めに購入しておく「日常備蓄」なら簡単に備蓄ができます。

最小限備えたいアイテム

以下のリストは、最小限備えておくべき物の例示です。備えるべき品目については、各家庭の抱える環境はさまざまですから、一人ひとりが自分に合った物を考えて備えましょう。



食品

缶詰などは加熱しなくても食べられます。また、野菜ジュースはミネラルやビタミン不足を補うことができます。

- | | |
|---|---|
| ☐ 水（飲料水、調理用など） | ☐ 加熱せず食べられる物（かまぼこ、チーズなど） |
| ☐ 主食（レトルトご飯、麺など） | ☐ 菓子類（チョコレートなど） |
| ☐ 主菜（缶詰、レトルト食品、冷凍食品） | ☐ 栄養補助食品 |
| ☐ 缶詰（果物、小豆など） | ☐ 調味料（しょうゆ、塩など） |
| ☐ 野菜ジュース | |

被災地を経験して重要だった物

被災地の避難生活を経験した方が重宝したという物は以下のアイテムです。このほか高齢者や乳幼児がいる家庭では、おむつや常備薬など、生活する上で必要不可欠な物は日頃から多めに備えましょう。病気の方、療養食が必要な方、アレルギー体質の方についても同様です。

- | | | |
|--|--------------------------------|------------------------------------|
| ☐ 水 | ☐ 簡易トイレ | ☐ 充電式などのラジオ |
| ☐ カセットコンロ・ガスボンベ | ☐ 懐中電灯 | ☐ ビニール袋 |
| ☐ 常備薬 | ☐ 乾電池 | ☐ 食品包装用ラップ |

生活用品

大型ビニール袋は、給水袋やトイレの袋としても利用可能です。生活スタイルに合わせて、必要な物を用意します。

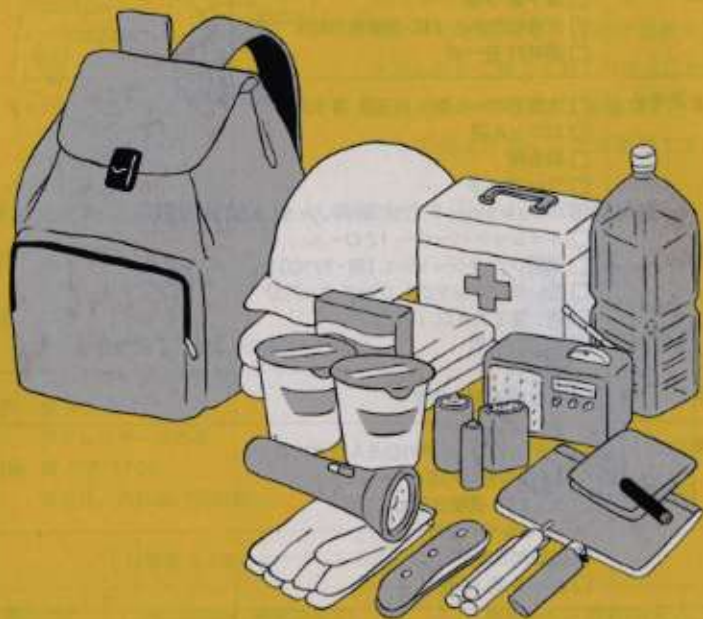
- | | | |
|------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|
| ☐ 生活用水 | ☐ 生理用品 | ☐ 充電式などのラジオ |
| ☐ 持病の薬・常備薬 | ☐ 使い捨てカイロ | ☐ 携帯電話の予備バッテリー |
| ☐ 救急箱 | ☐ ライター | ☐ ラテックス手袋 |
| ☐ ティッシュペーパー | ☐ ゴミ袋、大型ビニール袋 | ☐ 懐中電灯 |
| ☐ トイレットペーパー | ☐ 簡易トイレ | ☐ 乾電池 |
| ☐ ウェットティッシュ | | |



非常用持ち出し袋



避難した際、当面必要となる最小限の品を納めた袋が非常用持ち出し袋です。非常用持ち出し袋の中身は、それぞれ自分にとって必要な物を考え、準備することが重要です。それらをリュックなどに入れ、玄関の近くや寝室、車の中、物置などに配置しておけば、家が倒壊しても持ち出すことができます。



- | | | | |
|--------------------------------|-------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------|
| ☐ 懐中電灯 | ☐ 毛布 | ☐ 食品 | ☐ 哺乳瓶 |
| ☐ 携帯ラジオ | ☐ 電池 | ☐ インスタントラーメン | ☐ 現金 |
| ☐ ヘルメット | ☐ ライター | ☐ 缶切 | ☐ 救急箱 |
| ☐ 防災頭巾 | ☐ ロウソク | ☐ ナイフ | ☐ 貯金通帳 |
| ☐ 軍手 | ☐ 水 | ☐ 衣類 | ☐ 印鑑 |

持ち歩き用非常持ち出し袋

外出時に被災したときのために、常に持ち歩くカバンに最低限必要なアイテムを入れておきましょう。携帯ラジオの乾電池は外しておきます。

- | | | |
|-----------------------------------|-------------------------------|---|
| ☐ 携帯ラジオ | ☐ ライト | ☐ 乾電池 |
| ☐ 携帯電話用充電器 | ☐ 歯ブラシ | ☐ 携帯トイレ |
| ☐ ホイッスル | ☐ 小銭 | ☐ エマージェンシーセット・ブランケット |
| ☐ マップ | ☐ 水筒 | |

職場用非常持ち出し袋

会社で用意する以外の物を独自に備えます。会社に泊まることや、歩いて自宅まで帰ることを想定したアイテムを考えて準備してください。

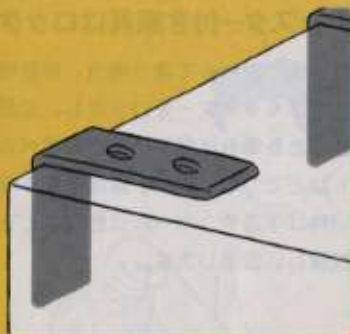
- | | | |
|---------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|
| ☐ 歩きやすい靴 | ☐ ヘルメット | ☐ 非常食 |
| ☐ ライト | ☐ 救急セット | ☐ 軍手 |
| ☐ 寝袋 | ☐ 簡易トイレ | ☐ レインコート |
| ☐ 水筒 | | |

まとめておきたい大切な物

紙製の証書や証明書、印鑑などはファスナー付きビニールケースに入れておくと、防水にもなります。万一のために家族の写真を持ち歩くのもよいでしょう。

- | | | |
|--------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|
| ☐ 家族の写真 | ☐ 免許証 | ☐ 年金手帳 |
| ☐ 貯金通帳 | ☐ 健康保険証 | ☐ 印鑑 |
| ☐ 株券 | ☐ お薬手帳 | |

転倒・落下・移動防止器具



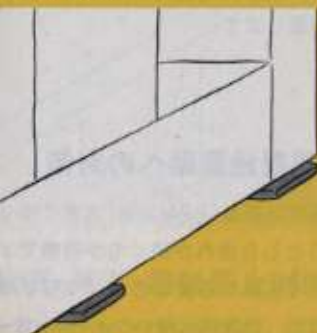
□ L型金具(下向き取り付け)

家具と壁を木ネジ、ボルトで固定。スライド式、上向き、下向き取り付け式があり、下向き取り付けが最も強度が高い。



□ ボール式器具(突っ張り棒)

ネジ止めすることなく、家具と天井の隙間に設置する。粘着マットやストッパーとの組み合わせで強度が高くなる。



□ 粘着シート(マット式)

粘着性のゲル状で、家具の底面と床面を接合させる。



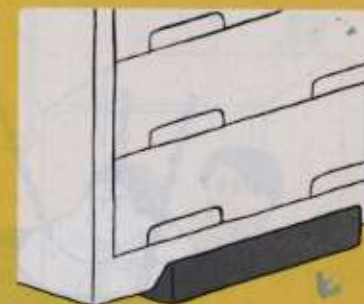
□ 着脱式移動防止ベルト

壁とキャスター付き家具をつなげ、移動を防止する。



□ チェーン

つり下げ式照明器具などをチェーンやワイヤーなどで結ぶ。



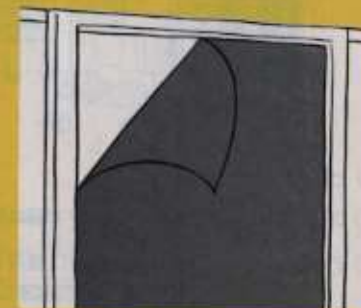
□ ストッパー式

家具の前下部にくさびを挟み込み、家具を壁際に傾斜させる。



□ キャスター下皿

キャスターの下に置き、家具の移動を防止する。



□ ガラス飛散防止フィルム

ガラス製の扉、窓などに貼るフィルム。割れた際の破片飛散を防ぐ。

❶ 防止対策のポイント



転倒・落下・移動防止対策はネジ止めが基本

家具類のレイアウトを工夫したら、器具による家具類の転倒・落下・移動防止対策を行います。最も確実な方法は、壁にL型金具でネジ止めすることです。ネジ止めが難しい場合は、突っ張り棒とストッパー式、突っ張り棒と粘着マットを組み合わせると効果が高くなります。



キャスター付き家具はロック

日常的に動かして使う場合、移動時以外はキャスターをロックし、定位置がある場合は壁や床に着脱式ベルトなどでつなげます。普段動かさない物は下皿や、ボール式器具などを設置し、固定します。



テーブル・イスの滑り止め

壁面に接して置いていない背の低い家具類の中でも、特にテーブルやイスは移動防止対策が必須。粘着マット、カーペットの場合は滑り防止マットを設置します。



長周期地震動への対策

長周期地震動(P240)は、大きくゆっくりとした揺れが続くのが特徴です。そこで注意が必要なのが、つり下げ式照明、観賞用水槽やウォーターサーバーなど水をためる物。適切な器具で対策を施しましょう。

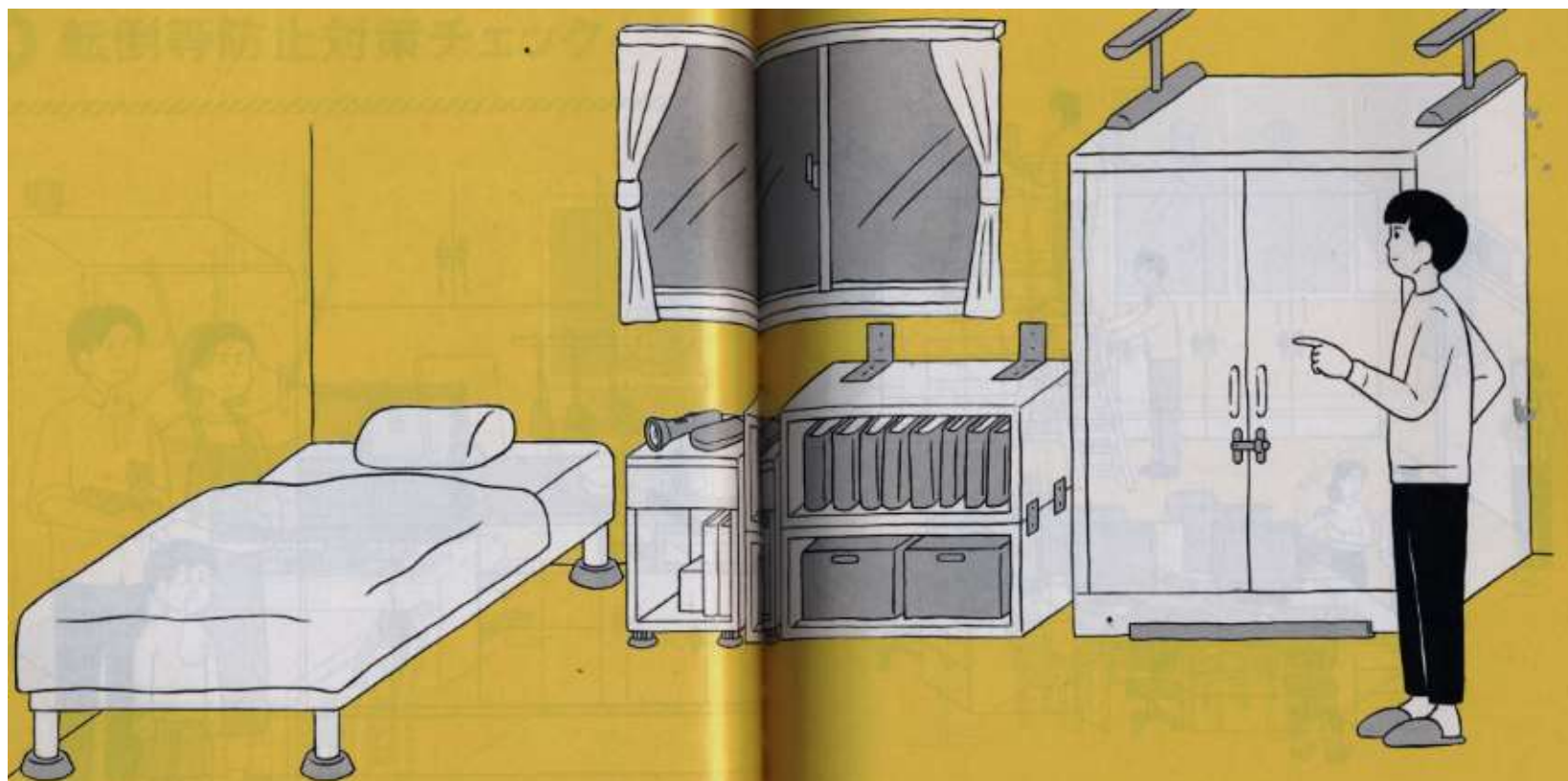
転倒等防止対策チェック



リビング・キッチン

- ☐ つり下げ式照明器具 チェーンで揺れ防止対策を行う。
- ☐ テレビ テレビ台に着脱式移動防止ベルトなどで固定。台はL型金具で壁に固定し、脚に粘着マットなどの滑り止めを付ける。
- ☐ 電子レンジ 粘着マットやストラップ式の器具で台に固定し、台もL型金具で壁に固定する。
- ☐ テーブル・イス 脚に粘着マットなどの滑り止めを付ける。

- ☐ 食器棚 転倒しても避難経路をふさがらない置き方をし、壁に固定する。ガラスには飛散防止フィルムを貼る。
- ☐ 引き出し 飛び出し防止のためにラッチ錠付きを使う。
- ☐ つり戸棚 収納物が飛び出さないよう、扉に開放防止器具を付ける。
- ☐ 冷蔵庫 避難の障害にならない場所に設置し、ベルト式器具などで壁と結ぶ。上に落下しやすい物をのせない。



寝室

ベッド

脚に粘着マットなどの滑り止めを付ける。額縁や壁掛け時計などはベッドの近くの壁や天井に取り付けない。

窓ガラス

飛散防止フィルムを貼る。

キャスター付き家具

動かさないときはキャスターをロックしてキャスター下皿をかませ、着脱式ベルトで壁につなげる。

■ 積み重ね式 収納ボックス類

上下を連結金具でつなぎ、L型金具で壁に固定する。
上に落下しやすいものをのせない。

■ タンス・ クローゼット

転倒しても避難経路（ドア）をふさがない置き方をする。
L型金具や突っ張り棒で壁や天井に固定し、ストッパー式を敷く。